令和6年第422回信濃町議会定例会 12月会議 会議録(3日目)

(令和6年12月5日 午後1時00分)

●議長(佐藤武雄) 休憩前に引き続き会議を開きます。

通告の8、伊藤博美議員。

1. 鈴木町長2年間の町政について
2. 来年度の予算編成について

議席番号11番、伊藤博美議員。

◆11番(伊藤博美) 議席番号11番、伊藤博美でございます。鈴木町長は、2年前の11月に就任されたと思っております。ちょうどコロナの中で町政を担われてきたわけですが、今ちょうど折り返し地点に立ったというふうに見ております。この2年間、町政を担って率直なところを伺いたいと思っておりますのでお願いいたします。

●議長(佐藤武雄) 鈴木町長。

■町長(鈴木文雄) ただいま頂きました伊藤議員からの質問にお答えしたいと思います。この2年間、どのような感想であるかということかと思っております。町長に就任いたしました2年が経過いたしました。当初は町の現状や課題についての認識も不足しておりましたので、まずは日々の決裁事務や予算案のヒアリングなどを通じまして、個々の事案の経過、そしてまた今後の見通しなどについて、情報を共有することに努めてまいりました。また、自治会や集落の皆様、商工会や観光協会など関係機関の皆様のご意見、ご要望等をお聞きしたいと考えまして、行政懇談会や会議にも積極的に参加したところでございます。またこの他にも、将来を担っていくであろう若い世代の声も伺うために、「若者会議」や「しあわせ会議」「異業種研修プログラム」といった機会もございましたので、町内外の幅広い世代との交流も、ある程度深まったのではないかと考えているところでございます。また2年前、施策の基本方針として掲げました「住んでよかった信濃町を次の世代へ」という目標につきましては、現時点において何か具体的な成果を評価できるような段階にはなく、また多くの課題が残されている中で、個別の事業の達成度を上げることにはあまり意味がないとも考えております。このタイミングで申し上げることができるとすれば、引き続き誠意を持って、そしてまた職員と一丸となって町政運営に努めていくということに尽きると考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

●議長(佐藤武雄) 伊藤議員。

◆11番(伊藤博美) この2年間を振り返っていただきまして、ゼロからの出発だったと

令和6年第422回信濃町議会定例会12月会議 会議録(3日目)

思うんですが、様々な世代の皆さん、これから地域の皆さん方との交流を深める中で、少しずつではありますが、信濃町というものも分かってきていただけたのかなというふうに思っております。先ほど町長の方からも申されました、就任に当たって、この代名詞とも言うべきものは、「住んでよかった信濃町を次の世代へ」というのが大きなキャッチフレーズになっていたと思います。ところが私たちの状況を見ますと、コロナ感染の真ただ中での町長就任だったということもありまして、私たちの生活や暮らし方、あるいはまた、商売に大きな町としてのダメージもあったのだらうなというふうには見ております。通常の町政を担うというのではなくて、余分ともいえるべき「コロナ」という厄介な課題もあったわけではありますが、それだけに難しい舵取りをしてきたんだらうというふうなことは予測しているところでもあります。今一度お聞きしますが、この難しい町政の舵取りを振り返っていただきまして、町長のこれまでの2年間の中で、どの程度までそれが、真髓が通ってきたのかなということの評価されていますか。お聞きしたいと思えます。

●議長（佐藤武雄） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） 先ほども申し上げましたように、現時点でどこまでできたかというようなことは、なかなか申し上げにくいわけですが、1点だけ申し上げることができるといたしますと、来年度から始まります、スタートとなります第6次長期振興計画の後期計画というのを、令和5年、6年を通じてその内容について、職員の皆さん、そしてまた審議会の皆さんとともに進めてまいりました。この基本計画でございますが、まずはその前提としてあります基本構想において掲げられております、「対話と協働」という基本理念をベースといたしまして、今後5か年におけます施策の方向性、あるいは見込まれる効果、達成度の指標等を明らかにしたところではありますが、町民一人一人が幸せに暮らすにはどうしたらいいのか、あるいはやりがいや幸福感を実感して、町民の間でその感覚を共有していただくのにはどうしたらいいのかというようなことを、主眼として政策を組み立てていったところがございます。議員おっしゃるようなこの世相を見ますと、町内にあっても人口減少であったり、あるいは高齢化という、いけばネガティブな要素はたくさんあるわけではありますけれども、それとは別に町民の幸福度を高めようじゃないかという感覚のもと、そういったイメージのもとで、新しい計画作りに審議会の皆さん、そしてまた役場の職員と一緒に関わってこれたのは、1つのポイントであったかなというふうには感じております。以上です。

●議長（佐藤武雄） 伊藤議員。

◆11番（伊藤博美） 幸福度追求それから第6次の長期計画の後半ということもかかってまいります。その中でまた具体的に鈴木カラーというものが出されてくればいいのかというふうには感じております。町長の方からもありました人口対策ということについても重要な課題の1つであろうと思っております。その対応として、子育て支援への支

令和6年第422回信濃町議会定例会 12月会議 会議録(3日目)

援の強化を挙げておりましたけれども、子育て支援といいますと保育料ですとか、あるいはまた学校給食という面がかかってくるだろうと思います。そしてまた、高齢者の皆さんには楽しい日々を過ごしてもらえよう環境の整備ということも掲げておったと思います。これらの課題について、特に子育て支援、そしてまた高齢者の皆さんの生活環境の整備という点については、どのような評価をされておるのでしょうか。お聞きいたします。

●議長（佐藤武雄） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） まず、給食費についてでありますけれども、令和5年分に多子世帯を対象といたしました、保護者負担の軽減策、第2子以下のこどもについては半額というようなことをやってまいりましたが、引き続きこれは継続したいと考えておりますし、また高齢者の生きがい対策でありますけれども、これは社会福祉協議会とも共同で連携して、いろんなイベント・企画、子どもたちと一緒にあった生きがい作りのための場所、時間の共有というような面で、いろんな様々な企画を立ててまいりました。大勢の方々に参加いただき、そしてまた集まっていた方が相互に会話や体操を楽しんでいたと、そんな姿を目の当たりにいたしまして、今後ともそういった機会を増やしていきたいというふうに感じているところであります。以上です。

●議長（佐藤武雄） 伊藤議員。

◆11番（伊藤博美） 皆さんから評価されてよかったという面については、今後の中でもまた継続をしていくというふうに捉えております。さて、信濃町といいますと農業と、それから観光というふうに言われておりますが、中心産業の1つであります観光業、これもコロナで大きなダメージを受けたというふうに思っておりますが、少しずつではありますが立ち直ってきているんだらうというふうには思っております。しかしながら、この間の2、3年の中での高齢化、それから跡継ぎ問題こういうことがありまして、廃業ですとか、あるいはまた縮小に追い込まれてきているという面もあります。中心産業としてですから、本来ならば力強い産業として今1つやってほしいなと思っている感はありますけれども、しかし高齢化、そしてまた後継者不足というような点から見ますと、なかなかそれも突出した形での力となって出てきていないんだらうなという気もいたしております。近隣町村との連携も一つではありますが、観光と見た場合に町を拠点として位置づける考えが必要ではないのかなというふうに思っております。今後の任期の中におきまして、中心産業として観光行政の在り方というものを伺いたいなと思っております。

●議長（佐藤武雄） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） 今後の信濃町における観光について、どのような考え方でいくかということかと思っております。以前のご質問にも答弁させていただいたと思っておりますが、信濃町

には数多くの観光資源があるというふうに認識しておりますが、それぞれ個々のコンテンツといいますか、それだけでは今後の観光振興にはなかなか難しい面もあるのではないかと思います。従って、個々の観光拠点をネットワークでつなげるような施策を講じていく必要があろうかと思っております。また、近隣の妙高市あるいは飯山市、長野市等にもある観光拠点と上手につなげることも大変効果の高いものだと思っておりますので、そういったことを網羅した観光ビジョンのようなものをまずは作って、近隣の皆さんの協力を得ながら、全体としての観光のレベルを上げられるように取り組んでいければいいかなというふうに考えているところであります。

●議長（佐藤武雄） 伊藤議員。

◆11番（伊藤博美） 豊かな観光資源は、この信濃町にもあることは十分承知しております。近隣町村との連携も深めながら、信濃町の観光が更に発展できるように、残りの任期の期間でも是非一つ力を出していただきたいなと思っております。医療の面から、「住んでよかった信濃町を次の世代へ」について考えたいなと思っております。私たちはこの間、町民アンケートというものを実施してまいりました。項目の中で、信越病院についても伺っております。多数の皆さんがマルバツではなく自筆で答えていただいております。期待する面もあれば、それから不安なことも寄せていただいております。新しい病院ができることを楽しみに待っていますというふうな声もありましたし、ハード面とともにソフト面の充実を求めるといふふうな声もありました。また、人口減のことですから、将来維持できるのかという心配の声も寄せていただいております。いずれもこの新しい信越病院は、建物も新しくなりますけれども、中身も充実した病院との期待の声だというふうには思っております。鈴木町長にとっては最大のプロジェクトになるのかなというふうには思っておりますが、これをどう次の世代につないでいくのかについて、お伺いしたいと思っております。

●議長（佐藤武雄） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） 病院についてですが昨日も同じように病院の今後の運営についてご指摘、ご意見も承ったところでございますが、繰り返しになりますけれども、やはりこの信濃町において唯一の医療機関である信越病院が、町民の皆さんの信頼のもとに、頼りにしてもらえよう病院になることがまずは必要かと思っております。そのためには医療従事者、お医者さん、看護師さん、リハビリの関係の皆さんはじめ、一体となって患者さんに親切、丁寧に対応していく、そういったことが1つ1つの積み重ねが、町民の皆さんの信頼に結びつくのであろうというふうに考えておりますので、今後とも機会があるごとに医師の方々、そしてまた看護師の皆さん方との意見交換を継続してまいりたいと考えております。また病院の状況を町民の皆様にも広く知っていただくこともまた必要かと思っておりますので、機会を設けて課題等について町民の皆さん方と意見交換できる、ディスカッションをできるような場を設けていけたらなというふうに考えている

令和6年第422回信濃町議会定例会 12月会議 会議録(3日目)

ところであります。以上です。

●議長(佐藤武雄) 伊藤議員。

◆11番(伊藤博美) 実は、町民の皆さんから自筆で寄せられていただいた内容は、私ここで発表できるようなものじゃないんですよ。非常に厳しい目で見えております。経営も当然のことなんですが、病院自体の質について非常に厳しい声が寄せられております。ここでは申し上げられませんが、また機会があればそういったことを是非お聞き願いたいというふうに思っております。さて、子育て支援の1つであります給食費についてお伺いしたいと思います。確認ですが、今の給食費は今年の5月27日でしたか、保護者の皆様へのお知らせということで一律30円値上げしました。このときに前期課程の低学年の皆さんが一食300円、それから高学年の皆さんが一食315円、それから後期課程の皆さんが345円となったと思うんですが、今もこれでいいのか、合わせて全校生徒数とその該当生徒数を分かったら、お知らせ願いたいと思います。

●議長(佐藤武雄) 外谷場教育次長。

■教育次長(外谷場佳子) 給食費の価格のご質問かと思えます。価格につきましては令和5年度に、今議員さんがおっしゃったように引き上げになりまして、令和6年度はそのまま引継ぎということで、おっしゃる通りでございます。人数については、手元に細かいものがなくて、また後ほど答えさせていただきたいと思えます。

●議長(佐藤武雄) 伊藤議員。

◆11番(伊藤博美) 今年度も第二子半額補助を行っております。来年度の予算編成では第二子半額は補助を行うのかどうなのか、そしてまた補助拡大の考えはあるのかどうか、これをお伺いします。

●議長(佐藤武雄) 外谷場教育次長。

■教育次長(外谷場佳子) 補助の拡大等ということで伺いました。令和6年度につきましては、令和5年度最初に実施したのと同じ条件で、第二子以降、学校に在学している子どもさんの数で数えて、第二子以降については半額ということで6年度も実施をする、今後清算をしてみたいというふうに考えています。現行の制度を維持してみたいというふうにあります。

●議長(佐藤武雄) 伊藤議員。

◆11番(伊藤博美) 来年度に向けても、現行を維持したいというふうな考え方だと思っ

令和6年第422回信濃町議会定例会 12月会議 会議録(3日目)

ております。改めて教育長にお伺いいたしますが、給食費の無償化についてです。この無償化ということは、全国あるいは全県に各自治体が広がってきておりますが、給食費の無償化という面について教育長の見解をお伺いいたします。

●議長（佐藤武雄） 北村教育長。

■教育長（北村康彦） 給食費の無償化についてのお尋ねでございます。給食費の無償化につきましては、今次長の方から現行制度を維持というような話をさせていただいたところでございますが、その現行制度維持、つまり来年度については予算等を計上する予定は今のところございません。給食費無償化につきましては、信濃町全体の子育て支援、その中で考えていく1つでありまして、その実施には大きな財政負担が必要となります。財源の問題もあることから、町の財政状況を踏まえて検討してまいりたいと存じます。また、財源としては恒久的な国の支援がどうしても不可欠というふうに考えておるところでございます。政府の、子ども未来戦略方針における調査結果を踏まえた課題の整理、具体的方策の検討等について注視していきたいと考えております。以上です。

●議長（佐藤武雄） 伊藤議員。

◆11番（伊藤博美） 当然のことながら財政問題が出てまいりました。これは本来ならば、国が5100億円だと思うのですが、全国全て無料にした場合、5100億円だというふうに記憶しておりますが、そのくらいあれば全国一律で無償化は可能になるということでありまして、県の段階ですと70数億円でしたか、ぐらいで全県は無償化になるのかなと思っておりますが、国の方がなかなかそれに渋っておりまして、財政的な支援をするということをはっきり申しておりません。従いまして各自治体が僅かながらの財政を振り絞って、これを子育て支援の方に回すということで、給食費の無償化ということを行ってきております。信濃町におきましても、前教育長との間で何回も議論をしてきたわけでありまして、国の体制、そしてまた県の補助も必要だろうということは分かっております。町長にもいろんな町村会議、あるいはまた知事会そういうものも含めまして、第三者機関として国の方に働きかけたいということも申し上げてまいりました。現時点における町長のお考えをお伺いいたします。

●議長（佐藤武雄） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） 給食費についてでございますが、先ほど教育委員会から答弁させていただいたとおり、来年度につきましては、今年度の内容をそのまま踏襲させていただく、そのような方針で現時点ではおります。以上です。

●議長（佐藤武雄） 伊藤議員。

令和6年第422回信濃町議会定例会 12月会議 会議録(3日目)

◆11番(伊藤博美) 私今日の中で深く突っ込んだ議論はするつもりはありませんが、向こうに行けば行くほど、各自治体の無償化ということが非常に広がってきております。つい先日の中野市長選挙でしたか、あれでも無償化ということを掲げた候補が当選いたしました。多額の費用のかかるということは言うておりましたけれども、それに向けてまた進んでいくんだろうなというふうに思っております。信濃町においても、1日も早い給食費の無償化ということには、是非、財政事情もあると思いますけれども、様々な形で財政を繰り出していただきまして、給食費の無償化に一步進んだ形で、進んでいただきたいなというふうに思っております。それから今、信濃町の給食で穀物ですとか野菜を使っているわけですが、町内産の量はどのくらい程度使っているのかお示してください。

●議長(佐藤武雄) 外谷場教育次長。

■教育次長(外谷場佳子) 数字のことですので私からお答えをさせていただきます。学校給食における町内産の食材の使用量ということでご質問をちょうだいしたかと思えます。いわゆる重量、重さでは換算をしていないので、確実に申し上げられないのですが、まず1点お米。お米につきましては通常主食として使っていますうるち米、その他もち米、雑穀米に関しては100パーセント信濃町産を使用しております。また、そのお米でございますが、いわゆる農薬や化学肥料を通常より少ない量で栽培しております、特別栽培米を使用しております。野菜等の農産物につきましては、今申し上げたとおり量、重量については集計していないためお答えはできませんので、主食を含めた購入金額で集計いたしますと、約3割が信濃町産でございます。主食のほかにナス、ピーマン、ネギ、カボチャ、トウモロコシなどの地元野菜のほか、根曲がり竹あるいは果物でありますブルーベリーなど、多くの食材を町内業者から購入をさせていただいております。また、味噌につきましても業者さんは町外でなんですけど、信濃町産の大豆を使用した味噌を通年で使用させていただいております。ですので、購入金額として約3割ということでございます。なお市場価格が上昇している中で、町内の業者様には本当にご協力をいただいて価格を抑えていただいているということで、全体に対する率は若干、令和4年度よりは下がっているというような状況でございます。以上です。

●議長(佐藤武雄) 伊藤議員。

◆11番(伊藤博美) お米については100パーセントということでございました。町内産、これは量的ではないんですね、価格の面で30パーセントということでした。どうなんでしょう、信濃町は野菜も大変豊富に摂れるわけですけども、購入金額100に近づけるというふうな方策というものはなかなか考えられないでしょうか。できる限り町内産を使って給食に向けられたら、農家の方々も嬉しいんじゃないかと思うんですが、その辺はいかがですか。

令和6年第422回信濃町議会定例会 12月会議 会議録(3日目)

●議長(佐藤武雄) 外谷場教育次長。

■教育次長(外谷場佳子) 食材の町内産ということでございます。私どもとしても基本は地産地消ということで、町内産のものをできるだけ多く使っていきたいというふうには考えておりますが、野菜類はシーズンも限られてしまいます。特に冬場は、なかなかこの降雪地帯で、もともと作付け等もされていないということで、なかなか町内産を使うことは厳しいのかなということと、野菜以外の例えばお肉とか魚というのはかなり無理があるということで、どうしても野菜中心になると、信濃町でいうシーズン、春夏先から冬初頭ぐらいまでですか、大根とかも入れれば。については、可能な限り町内産を使っていきたいというふうには考えております。以上でございます。

●議長(佐藤武雄) 伊藤議員。

◆11番(伊藤博美) 町内産を使っていたきたいと思うんですが、例えば調理方法でフリーズドライの方式を用いるとか何かをして、夏に取れた野菜を秋の遅い時期から冬にむけて持っていか、そのような方法を考えていただければ消費の拡大に少しはつながるのかなと。これは素人目で見ただけですが、そのような考えも持っております。給食の関係について、最後一言お伺いいたします。第二子の補助は、来年度も続けるということでございましたが、物価高騰が続いております。教育長にお伺いしますが、来年度に向けて給食費の値上げは考えておりますか。

●議長(佐藤武雄) 北村教育長。

■教育長(北村康彦) 来年度の給食費についてのお尋ねでございます。今議員ご指摘のとおり、物価高騰の折柄ということで、例えばお米、報道等でもかなり値上がりしている。それから、毎日のように使われる卵それから牛乳等も大変値上がりしているという状況の中で、今年の給食費を維持するという事は難しいのではないかとこの状況でございます。ですので、金額的なことは申し上げられませんが、やはり値上げを検討していかざるを得ないというふうに思っております。以上です。

●議長(佐藤武雄) さきほど答弁漏れがありましたので、外谷場教育次長どうぞ。

■教育次長(外谷場佳子) 先ほど、現在6年度の学校給食を利用されているお子さんの人数というふうにご質問あったかと思いましたが、答弁漏れでしたのでお答えをさせていただきます。人数につきましては、前期課程の低学年1年生から3年生につきましては105人、前期課程の高学年4年生から6年生につきましては123人、いわゆる前期課程の生徒につきましては228名。後期課程、中学生にあたる年代でございますが、161名ということで、合計392名が給食を利用しているということでございます。以上です。

令和6年第422回信濃町議会定例会12月会議 会議録(3日目)

●議長(佐藤武雄) 伊藤議員。

◆11番(伊藤博美) 教育長のほうから物価高騰の折り、大変厳しくなるということで、いつになるか分からないけれども、値上げを検討せざるを得ないという回答だったと思います。どのくらいの額になるかは分かりませんが、いつ頃からになるかも分かりませんが、できる限りこれはギリギリを抑えていただいて、町の方で財政的な補助ができるのであればそれらも含めて、値上げするにいたしましても、十分熟知して考慮していただきたいなというふうに思っております。次に部活動の関係についてですが、昨日同僚議員も言っておりましたので、私はこれを省きたいというふうに思っております。最後に、補聴器購入の補助制度についてお伺いいたします。昨年12月の会議において請願が採択され、本年度の予算では実現できなかったわけですが、来年度予算の執行に向けて予算規模はどのくらいで、それを執行するような準備をされているのかどうかをお伺いいたします。

●議長(佐藤武雄) 佐藤住民福祉課長。

■住民福祉課長(佐藤宏幸) 去る3月の議会の中でも、町長の方から今回の補聴器の制度を創設する方向でというような答弁がありました。それらを受けまして、来年度、7年度の予算編成に向けて現在予算要求の方はしてございます。予算規模につきましては、詳細の方については、現在予算要求の段階ですので述べることはできませんけれども、近隣町村並みの予算要求額になるのではないかとというような予測を立てております。以上です。

●議長(佐藤武雄) 伊藤議員。

◆11番(伊藤博美) 本年度の予算の中に入れてあるというふうに理解をいたしました。予算規模につきましては、まだ明確ではないということはおわかります。執行にあたりまして、ぜひ難しい執行のようなやり方は省いていただきたいと思うんです。誰しもが簡単にできるような方法という方策を考えていただけたらなと思います。補聴器の問題につきましてはその後、町民の皆さん方からいくつかお声がけをしていただきました。実際、実現ができるのかどうかということもありましたので、今町の方で熟知をしていると、うまくいけば来年の予算で済むかもしれませんということは報告はしておきました。町民の皆さん方がこれを使って、一人でも多くの方々が認知症を遅らせるというふうなことになっていただけたら私も嬉しいなというふうに思っております。来年度の予算に向けまして、きちっとした形で出していただけることを期待いたしまして、私の一般質問を終了いたします。ありがとうございました。

●議長(佐藤武雄) 以上で、伊藤博美議員の一般質問を終わります。以上で一般質問を終わります。本日の日程は全て終了いたしました。

令和6年第422回信濃町議会定例会 12月会議 会議録(3日目)

お諮りいたします。委員会審査のため、本日の本会議終了後から12月17日までの間を休会としたいと思っております。これにご異議ございませんか(なし、の声。)ご異議なしと認めます。よって、本日の本会議終了後から12月17日までの間を休会とすることに決定いたしました。

なお、12月13日金曜日は議会全員協議会及び議会運営委員会が予定されていますので、時間までにお集まりください。本日はこれで散会といたします。ご苦労さまでした。

(終了 午後1時37分)